

若手・女性研究者奨励金にご支援を賜りました
寄付企業法人や寄付者の皆様へ



受賞者から御礼の言葉

2018年度（第1回）女性研究者奨励金 受賞者

事崎 由佳

岩手医科大学 医学部 助教

〔研究課題名〕

産後の生活介入による母親と子どもの心理的影響についての検討

寄付者の皆様へ〔御礼〕

産後うつは赤ちゃんを産んだばかりのお母さんに出てくる症状です。おおよそ7人に1人の割合で産後うつを経験すると言われていて、初めての出産に限らず、2回目以降の出産で症状が見られることも少なくありません。

出産後は、赤ちゃんとの生活の中で、なかなか外に出にくいということもさることながら、赤ちゃんを連れて病院を受診する大変さ、授乳のことを思うと服薬は避けたいという思いなどから、ちょっとした気分の不調ぐらいだと我慢してしまうお母さんも多いのではないのでしょうか。そんな時、自宅の中でも手軽に気分転換ができて、楽しく過ごすことができる効果的な対処方法はないかなと思ったのが、この研究のきっかけでした。

これからも、多くのお母さんと赤ちゃんの笑顔が続くために、「研究」というツールを使ってサポート出来たらと思います。

柳下 楠

埼玉医科大学 医学部 助教

〔研究課題名〕

自閉症リスク因子に対する性ホルモンのシナプスでの作用

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究を通して、今までにない発想から自閉症の発症に繋がる新しいメカニズムの解明の一端が開けたと自負している。また本研究を受けて、自閉症の発症機構に新しい観点が加わり、自閉症をはじめとした発達障害に対する更なる理解が進むとともに、社会性やコミュニケーションの障害といった、生活上の困難を伴う症状の改善に繋がることを目指していく。これは、本奨励金を頂き、皆さまの支援を賜ったおかげであり、そのために自由な発想を持って研究を行うことが出来、大変感謝しております。

日本の研究力が落ちていると言われて久しくなっている。この手の議論では大抵、インパクトファクターと呼ばれる、掲載雑誌の影響度の指標として使われている評価数値の高い雑誌に掲載された論文数などを基準に論が進められることが多い。しかし、インパクトファクターは雑誌の評価指標であって、掲載されている論文の評価ではない。まして、研究者本人の評価ではありえない。また、昨今のインパクトファクター競争の奇烈化により、高いインパクトファクターの雑誌に論文を掲載するためには、豊富な資金と人材を使っ手の込んだ実験を多数行うことが必要になる。これにより、必然的に、有力な研究室にさらに大型の予算が集まるという循環が繰り返されている。また、このような研究体制では、成果を求められる余り、研究者自身の自由な発想や知的好奇心によって研究を行うことが困難になっている。しかし、科学研究の推進力は、ひとえにまさに、この自由な発想と知的好奇心のみ拠っている私と考える。また、真に独創的な研究は、根本的な「問い」に対して答えを与える「新芽」を提示する研究であり、この「新芽」が多くの研究者を惹きつけ、大掛かりな研究が始動し、やがて「実」になるものである。これには、大型の研究資金ではなく、少額でも独創的な研究の新芽を生む「タネ」となる自由な発想を支援する制度が是非とも必要である。このような状況の中、本奨励金のように、研究の世界で独立したばかりの若手や女性研究者が、自由な研究をのびのびと行えるように支援して頂ける助成金は本当に稀有であり、大変貴重である。実際に、本研究でも、今まで研究の主流筋では想定されていないアイデアについて、研究を行うチャンスを本奨励金により頂いた。そして、そのご支援のおかげで、自身の一生の研究テーマになるような着想について、足掛かりとなる結果を得ることが出来た。このような機会を更に、多くの研究者に繋げていくことが出来れば、本当の意味で日本の科学研究力は向上していくと確信している。また、申請者も、本奨励金の支援に恥じないような研究を、更に邁進していく決意である。

横田 睦美

順天堂大学 大学院医学研究科 助教

〔研究課題名〕

PARK2iPS細胞を用いたドパミン神経特異的な病態機序解明
－GFP標識ドパミン神経の形態学的研究－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本奨励金のご支援のおかげで本研究を遂行することができた。

本研究により得られたiPS細胞株を用いた研究はパーキンソン病の発症機構解明や治療法探索に効果的である。様々な疾患に苦しんでいる患者様や生命現象の知的理解に少しでも貢献できるよう、今後も研究活動に励み、適宜報告を行っていく所存である。

宇高 結子

昭和大学 医学部 助教

〔研究課題名〕

ドライアイ誘発性眼炎症に対する茶カテキンの保護効果

寄付者の皆様へ〔御礼〕

エピガロカテキンガレート(EGCG)は茶特有のポリフェノール成分で、抗酸化作用や動脈硬化抑制作用、抗炎症・アレルギー作用など多様な生理作用を有しています。緑茶の飲用は、老若男女を問わず日本人に馴染み深く、今回、緑茶飲用でカテキンが涙に移行する可能性が示唆されました。茶飲用は点眼と異なり、子供でもできる簡便な手段です。パソコンやスマホ作業で生じるドライアイや、紫外線を浴びる屋外作業や外遊び時の目の日焼けに、カテキン含有緑茶飲料が、補水に加え眼球保護にも役立つ可能性があるかもしれません。

春日 文

白百合女子大学 人間総合学部 助教

〔研究課題名〕

児童期における歌唱活動の機能と役割の検討

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究により、児童期においても乳幼児期の歌唱活動の効果が持続し、また、歌唱活動により子どもの情動が安定し、歌を通して体験した安心感は母親との良い関係性につながるとともに、友だちとの関係作りへと展開することが考えられました。歌を通して育まれる人と人との関係性や、そこからうまれる安心や喜びを感じる子どもの心を大切に扱うことで、歌のある人生がより豊かなものになる可能性があると考えます。最近の活動としては、歌唱活動を取り入れた子育て支援活動を行いました。親子で笑い合う様子や新しい友だちができる様子がみられ、温かいひとときとなりました。

女性研究者奨励金による温かいご支援により、児童期における歌唱活動の機能と役割の一端が明らかになり、得られた研究成果を地域活動へと繋げることができています。また、青年期の歌唱活動に関する研究への道筋ができ、研究活動を継続する上で大きなステップとなりました。

今後も、研究で得られた成果を広く社会に発信できる場を大切にしながら、歌唱活動の研究を継続していきたいと願っています。

小田嶋 彩乃

東京歯科大学 歯学部 ポスト・ドクター

〔研究課題名〕

22q11.2欠失症候群由来iPS細胞による顎骨病態機序の解明

寄付者の皆様へ〔御礼〕

障害者歯科を受診する患者においては顎顔面領域に多くの症状を示すため、その病態解明、治療法の確立は重要であるとされている。顎顔面領域(歯牙、口蓋、下顎骨)組織は胎生期に発生する。そのため症候群における口蓋裂や象牙質形成不全、下顎骨低形成は胎児期発生段階で症状を呈するが胎児期の細胞を採取することは困難である。そのため今回ヒト胎児期の細胞を再現出来る疾患特異的iPS細胞の作成、顎顔面領域分化誘導後の症候群病態解明という考えに至った。

今後は今回作成した疾患特異的iPS細胞由来の神経堤細胞や象牙芽細胞を用い、歯科領域における顎顔面領域の治療法の確立を行うことで、患者のQOL向上を目指していきたいと考えている。

山本 寿子

東京女子大学 人間科学研究科 ポスト・ドクター

〔研究課題名〕

子どもとのインタラクション経験が情動知覚に与える影響の検討

－顔と声からの多感覚知覚に着目して－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

現代は視聴覚メディアを通して世界中と繋がることのできる時代です。その中では、多種多様な環境で暮らしてきた人々が互いの文化的背景を背負いながら、また子どもから老人まで幅広い年齢層にわたる人々が、かつての垣根を越えたやり取りを行っています。そのような情報伝達技術の革新により、表情のニュアンスや声色が与える非言語情報を通じたコミュニケーションは、ますます重要になっていくと言えます。一方、コミュニケーションの拡大は、同時に誤解を生み出す恐れもはらんでいます。本研究の知見が、文化や年齢を越えた互いの「ものの捉え方」の特徴を理解する上での手がかりとなり、スムーズなコミュニケーションの一助となることを願っています。

今回の研究テーマを思いついたきっかけの1つは、育児により研究を離れた時期に、自分自身の表情や声の作り方、また世の中の見方や聞き方までもが、それまでにない変容を遂げた（気がする）ことでした。また、研究を中断していた身で、再び研究を始められるかということにも非常に不安を覚えていましたが、今回のご支援をいただいたことにより、新たなスタートを切ることができました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

日根 恭子

東京電機大学 情報環境学部 助教

〔研究課題名〕

VRを用いた身体機能向上プログラムの開発と心身への効果の検討
－「トんでトんで」の研究開発－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

私は、VR研究では、どのようにすれば現実と同じような体験ができるかという着眼点だけではなく、どのようにすれば現実を超えた体験ができるかに関する研究が必要であると考えています。なぜなら、現実の模倣では、現実を超えられず、VRの価値が十分には発揮できないからです。私は本研究を通じ、現実の模倣だけではないVRの新たな可能性を伝えたいと考えています。それとともに、技術の進歩により、今まで人類が体験したことのない体験を私たちが目の当たりにしたとき、私たちの可能性はどこまで広がっていくのか探求し続けることが、人類の幸せのために必要であると思います。

どうぞ、今後も科学技術へのご支援をお願いいたします。

川崎 玉恵

東京理科大学 理学部 助教

〔研究課題名〕

母集団間で分散共分散行列が異なる場合における統計的手法の開発

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究課題は、まずは理論的な部分における発展を目指しており、様々な現象や状態を数学的に一般化した形での提案となる。しかし、（多変量）Behrens-Fisher問題は多くの応用分野が直面している問題であるにも関わらず、使いやすく有効である決定的な手法の提案には至っていない現状がある。そこで本研究課題は、理論的な立場ではあるが、応用面で直面している問題について挑み、統計学における理論的な発展と、データサイエンスが進む社会に対する貢献の2つを目指している。

理論的な基礎研究の積み重ねが、今日の応用分野の発展につながっている一方で、応用面には直接的に結び付かない結果があるのも事実である。貴事業団からのご支援により、これまで改めて向き合うことのなかった構造に関する研究など、多くのことを学ぶ機会となり、今後の研究への大きな基盤づくりができた1年であった。

このような理論的な基礎研究に対し深いご理解を示していただき、ご支援くださったことに対して深く感謝申し上げます。

秋元 賀子

東京薬科大学 薬学部 助教

〔研究課題名〕

近赤外線 (NIR) および紫外線 (UV) の皮脂腺に対する作用

寄付者の皆様へ 〔御礼〕

近年、UVだけでなくNIRの皮膚に対する作用に関心が高まりつつありますが、その作用については十分に理解されていないのが現状です。今回の結果から、UVおよびNIRの皮膚機能、特に皮膚バリア調節における生物活性が明らかになりつつあります。今後のさらなる研究の発展により、皮膚におけるNIRの功罪の同異性を提唱できると考えています。また、その分子機構に立脚したNIRの光老化防止を指向した新規化粧品の開発に繋がることを期待しています。

今回の結果から、過度のNIR照射は皮膚への悪影響を及ぼすことが予想され、美容皮膚の観点からするとUVBと同様にNIRからも皮膚を防御することが重要であると考えられます。太陽光は、かけがえのない自然の恵みですが、上手にUVBやNIRから自分の肌を守りましょう！

東 翔子

東邦大学 理学部 ポスト・ドクター

〔研究課題名〕

ルシフェリンアナログの網羅的合成に向けた有機合成手法の開発

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度はご支援をいただきありがとうございました。

高性能な分析機器等の必要を別としますと、有機合成研究は実はあまり初期費用を必要としません。というのも、有機合成化学者のほとんどは、どこでも安価に手に入る原料試薬を使い、より役に立つ化合物を組み立てようという基本的な考えを持っているからです。ただ、色々アイデアが浮かぶ過程で、もしかしたら一度しか使わないことになるかもしれない試薬、試してみたいが失敗に終わるかもしれない反応、など数多くの「出資をためらう場面」が出てきます。そのような時、普段は結局何もしないことになるのですが、今回私はご支援をいただいたことで大いに背中を押していただきました。

今後とも、ちょっとしたアイデアは持っているが御蔵入りにしてしまっている有機合成化学者の後輩たちへも、是非ご支援をお願いいたします。

木邊 量子

日本獣医生命科学大学 獣医学部 助教

〔研究課題名〕

家畜および伴侶動物におけるコリスチン耐性菌保菌率に関する調査

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度、女性研究者奨励金で支援をいただきました。

薬剤耐性菌問題は、G7で取り上げられるなど、全世界が取り組まなくてはならない問題です。薬剤耐性菌が増えると、抗生物質が効かなくなり、多くの感染症が治癒しない原因となります。コリスチンは現在使用中止されましたが、家畜の病気を予防するために飼料に添加されていたため、動物から環境へ、そして人への耐性菌の移行が懸念されています。問題解決のために、新たな薬剤の開発や抗生物質の慎重使用が早急な課題となっていますが、現に存在する薬剤耐性菌の動向調査は将来的な増減を知るきっかけとなるため、非常に重要です。今回、女性研究者奨励金の支援を受けこの動向調査、特にこれまであまり調査されていなかった伴侶動物に関して調査をすることができました。

私事ではありますが、出産・子育てを経験し現職に就任して3年目になります。所属研究室では薬剤耐性菌を対象にした研究を長年おこなっていますが、今回の採択は私にとって研究室に貢献できるものであり、またこの研究から派生して多くのテーマを築くことができました。この支援を励みに、また次の女性研究者の励みになるよう、続くテーマに精力的に取り組みたいと考えております。この度はご支援、誠にありがとうございました。

白取 真実

貞静学園短期大学 保育学科 助教

〔研究課題名〕

新設保育所における特別支援教育推進に関する研究

—園内研修による保育士の変化に着目して—

寄付者の皆様へ〔御礼〕

資格を持っていても保育士として働かない、潜在保育士が多数いると言われていています。子どもが好きで、先生を目指して資格を取ったのにも関わらず、様々な理由から、保育士としての職につかない人が多いという現状は非常に悲しいものがあります。現在増加している保育所の多くは、決して十分な環境が整っているとは言えません。私は、園庭が使用できない、マンションの一室で保育スペースが限られている、人手が不足している保育所に他の保育所からヘルプが入る現状を目の当たりにしました。現場経験のある研究者として、保育士が働く過酷な現状を伝えていく必要があると強く感じました。

そのような中、限られた環境においても、保育を少しでも良くしたい、子どものために学びたいと願う保育士の皆さんの熱意で、本研究は支えられました。株式会社が運営する保育所、小規模保育施設等における、保育実践の積み重ねや、保育士に対する支援については、今後さらに研究の積み重ねが必要であると感じます。本研究は、一つの保育所の取り組みを、追跡した研究ではありますが、今後さらに調査数を増やし研究を進めていきます。

今回奨励金をいただいたことで、研究に必要な分析ソフト等を購入することができました。今後の研究活動においても活用していきます。また、広島で行われた、発達障害学会でのポスター発表も経験することが出来ました。他大学の先生方より、貴重なご意見をいただき、大変勉強になりました。ご支援をいただき、本当にありがとうございました。

平田 彩奈恵

神奈川大学 経営学部 助教

〔研究課題名〕

『源氏物語』の大衆文化における変容

－田辺聖子『新源氏物語』以降を対象に－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

古典はとかく「変わらないもの」「新しく発見されることはないもの」と捉えられがちである。たしかに、作品の「存在」は、よほどの発見がなければ大幅に変わることはない。しかし、『源氏物語』であれば1000年以上の間、成立当時のままこの物語が受け継がれているとは言い難い。本文の言葉一つの写し間違いを取っても、そこから解釈が変わってしまうなど、さまざまな変容を遂げながら現代に至っているのである。そういった、意図しない変容のみならず、古典をその時代に合わせて変え、楽しむためのものとして再生産する試みはずっと行われ続けてきた。どのような改変を加えているのかを見ることで、現代における『源氏物語』のありよう、私たちがどのような『源氏物語』を選択したのかが見えてくる。古典を精読するだけが次世代に引き継ぐ行為ではなく、楽しみ、魅力を感じながら触れてゆく大衆の存在があっはじめて古典は受容されてゆくのである。堅苦しく、正確に「読む」ことから一度離れ、どのような点におもしろみがあるのか、まずは触れてみてほしい。

新田 恭子

金沢医科大学 糖尿病・内分泌内科学 助教

〔研究課題名〕

内因性抗線維化ペプチドAcSDKPの臨床応用への基盤研究

寄付者の皆様へ〔御礼〕

我が国の透析導入原因第一位は、糖尿病腎症である。血糖だけでなく血圧・脂質などの多角的治療介入により、糖尿病腎症で透析導入する人は横ばいになってはきたものの、未だ進行した腎症を止めることは難しい。早期発見・早期治療に勝る治療はないのが現状である。糖尿病腎症は尿アルブミンとeGFRにて病期が決定されるが、尿アルブミン増加を呈していない腎症1期症例の腎機能低下の予測因子として有用なバイオマーカーは存在しない。腎機能が低下する前の、腎症1期にAcSDKPで腎機能低下が予測できれば、早期からの腎保護に特化した集学的治療を開始できる可能性があると考えます。今後も症例数を増やし、実臨床に役立つ研究を続けていきたいと考えています。

後藤 みな

修紅短期大学 食物栄養学科 助教

〔研究課題名〕

科学的体験場面における「隠れたカリキュラム」の特質解明
－ 幼児教育施設での場合－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

私は就職してから半年後の4月に本助成事業に採択されました。院生時代から、就職してから研究したいことを構想していましたが、いざ始めようとする、研究環境の整備という問題に直面しました。こうした問題に対して、本ご支援は、新しい研究の最初の一步を踏み出す大きな勇気をくださいました。本ご支援を頂戴できたことは、私にとって大変幸運でした。心より御礼申し上げます。

おかげをもちまして、将来につながり得る研究環境を整えつつありますし、また諸学会に参加し、自身の研究の立ち位置を確認することができました。さらに、自身の研究者としての未熟さにも改めて気づくことができました。研究者として自立して研究を進めなければならない状況の中で、研究の計画、実行、まとめのあらゆる局面で繰り返し戸惑い、悩みました。また他方で、新しい発見をする機会にも恵まれ、研究の深みをもっと出したいと思うようにもなりました。研究者としてまだまだ未熟な自分ではありますが、今後も子どもと科学的な体験に関わる研究をしていく所存ですので、これからも変わらぬご支援、ご厚情を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

藤山 あやか

滋賀文教短期大学 子ども学科 助教

〔研究課題名〕

教員養成における実践的音楽教育活動の具現化に向けた取り組み
ー ドイツ・Jekitsプロジェクトの事例から ー

寄付者の皆様へ〔御礼〕

日本国内においてもグローバル化が進む現代社会の中で、教育現場では共存社会の形成の実現を目指すグローバル化に対応した教育の展開が求められています。音楽は、「言葉を必要としない言語」として、その表現活動により一つのものを創り上げる協働作業を通して個々の多様な価値観を理解し合う手段として大きな可能性を持っています。

本奨励金より助成を受けて実施した「日独親善交流音楽会」では、小学生にとっては海外からの音楽家による生の音楽に触れる機会として、また、学生においては、演奏会の企画・運営・実施に至る過程の中で、海外の音楽家との交流を通じて多文化への理解を深める大変貴重な機会となりました。

また、本研究ではドイツの初等音楽教育について、今回の現地視察での授業見学や講師へのインタビューより、その理念について知見を深めることができ、今後の研究を推進する成果を得ることができました。今後も、教育実践につながる研究活動を行い、次代を担う子どもたちの可能性を最大限に引き出す音楽活動を展開していきたいと思います。

この度は、本研究を遂行するにあたりご支援いただきました皆様に、深く感謝の意を表します。

高岡 しの

梶山女学園大学 人間関係学部 助教

〔研究課題名〕

ユーモアスタイルを用いたポジティブ心理学的介入の検討

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究は、誰にとっても身近なものであるユーモアをwell-beingの向上に応用しようとするものです。well-beingを高めると言われている介入方法はすでいくつかありますが、さらに笑顔を増やし、楽しんで行えればというのが私の願いです。この研究は今後、産業領域や福祉領域などでのメンタルヘルス対策にも大きく貢献する可能性を秘めています。また臨床心理学の分野においても、予防的介入として現場で応用することができるレベルにまで昇華できれば、より多くの人のお役に立てるのではないかと考えています。

若手研究者は即時的な成果を期待されます。非正規雇用や有期雇用が多いため、常に次の職場を考えなければならず、しかもそれには業績が必要だからです。そのような状況で、限られた研究費の中で、本当に自身の関心に合った研究ができることは多くないと思います。今回、奨励金のご支援をいただき、このチャレンジングな研究をスタートさせることができた経験は、研究者としてやっていけるかの不安のなか、本当にありがたいものでした。また式典では多くの企業の方々から私たち若手・女性研究者に対し直接応援のお言葉をいただいたのも、とても心強いものです。若手研究者が細々とでも自身の研究を継続していくことが、ひいては未来の発展につながっていくものだと思います。

今後ともどうかご支援、応援をお願いいたします。この度はご支援賜り、本当にありがとうございました。

福重 香

愛知医科大学 医学部 助教

〔研究課題名〕

メディカルガスを主薬とした炎症性皮膚疾患適応外用薬剤の開発
－ファインバブル内封リポソームの応用－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

これまでドラッグデリバリーシステムに関する研究を行い、その過程で得た知識と経験を活かして、この研究を遂行することができた。本研究によりUFB薬剤が、炎症性皮膚疾患治療に使用可能であることが明らかとなった。今後はこの技術が、広く他の疾患治療へも応用されることを期待したい。

今回頂いた、日本私立学校振興・共済事業団 女性研究者奨励金に感謝し、抗炎症メディカルガス含有外用薬剤の開発をさらに進めていきたい。

飯居 宏美

京都薬科大学 病態薬科学系 臨床腫瘍学分野 助教

〔研究課題名〕

新規GGCT阻害剤を用いた新しいがん治療戦略の創生

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本奨励金により進めた研究成果は、GGCT阻害剤の新規がん治療薬としての有用性を示したと考えられます。これまでの研究により、GGCTの阻害が生体内で高度な有害事象を示さず、がんの増殖を抑制すると考えられ、今後の開発を進める大きな後ろ盾となるデータが得られたと思われます。

ここまで研究を進められたのは、他の研究資金を一つも獲得できていなかった私が本奨励金を頂き、一筋の希望を持てたからです。女性であるという事は、研究者としてそれだけで不利であるという意見も何度も聞いたり言われたりしてきました。後世の女性の研究者達がそのような暴言に悩まされることなく、自身の力を存分に発揮するためには、女性だからこそ獲得できる研究助成金は非常に重要です。

今後ともどうか本奨励金によって勇気づけられた女性研究者が活躍できるよう、奨励金に対するご支援をお願いしたいと存じます。どうぞよろしくお願い致します。

名和 愛利香

同志社大学 研究開発推進機構 理工学部 助教

〔研究課題名〕

ドラッグデリバリーを目的とした能動輸送ベシクルの設計

寄付者の皆様へ 〔御礼〕

生物は等温系でミクロなポテンシャル差（濃度勾配など）から仕事を取り出して効率的に機能しており、その生体機能を維持するために、生体内では複雑な化学的構造をもつ分子機械が自律的に運動しています。このような観点から、近年、自律的に運動するシステムをもつアクティブマターへの関心が高まっています。また、生体機能のメカニズムを理解し科学技術に応用するバイオミメティクスの分野では、複雑なタンパク質の構造解析や動的状態を詳細に解明することで、分子機械などの機能についての深い理解が進んでいます。一方、ミクロな濃度勾配から力学的仕事をうみだす分子機械にたんぱく質などの複雑な構造は必要なのかについては必ずしも明らかではありません。

現在、生体機能に見られる運動を最低限模倣できるモデル系を、比較的簡便な実験方法とベシクルを用いて設計し、そのメカニズムを理解することで、様々な生体機能を実現できるような、分子集合体設計法の確立を試みています。このようなモデル系の設計は、多様で複雑な生体機能に潜む物理的な普遍性の理解につながると考えています。そうすることで、これまで受動拡散が移動メカニズムであったドラッグデリバリーシステム設計や、水質管理や細菌除去において目的物質を吸着する薬剤を特定の場所に能動輸送するシステムの発想に質的な影響を与えることができると考えており、単純な人工系で生物のような運動システムを構築することができれば、革新的なエネルギー変換技術につながると期待しています。

山田 宮土理

近畿大学 建築学部 助教

〔研究課題名〕

竹材の耐腐朽性を向上する加熱処理に関する研究

寄付者の皆様へ〔御礼〕

私の専門は建築材料学ですが、これまで主に土壁に関する研究をして参りました。近畿大学への着任を機に研究テーマの幅を広げ、竹材などの天然資源の活用についての研究に着手したいと考えておりました。新たな環境で新たな研究に着手する際には様々な実験関連品を揃える必要がありました。

今回ご支援を頂いたことで研究に着手することが可能となり第一歩を踏み出すことができました。誠にありがとうございました。

大竹 裕子

近畿大学 薬学部 助教

〔研究課題名〕

肺胞標的型吸入用薬物ナノ粒子の創製と肺線維症治療への応用

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本奨励金による支援により、ナノ粒子の吸入剤応用において極めて重要な情報を得ることができました。得られた検討結果をもとに、今後もナノ粒子を応用した革新的な肺疾患治療の実現に向けて全力で研究を推進する覚悟です。

ご支援賜り誠にありがとうございました。

小林 彩香

森ノ宮医療大学 保健医療学部 助教

〔研究課題名〕

TPX2を介した肺腺癌の浸潤メカニズムを解明する

寄付者の皆様へ〔御礼〕

平成30年4月から1年間の女性研究者奨励金をいただき、誠にありがとうございました。

妊娠・出産のため、4～7月までの研究期間となってしまい申し訳ありません。平成30年7月14日～3月31日（7月23日出産）まで産休・育休を取らせていただきました。

研究者にとって、ブランクを空けずに研究を少しずつでも進めていくことが重要だと思っています。しかし、女性研究者は妊娠や出産・子育てで研究を中断せざるを得ない時期があります。私は、その期間も少しずつ研究を進めたいと考えています。今回、女性研究者奨励金の採用が決まったときに、辞退すべきかどうかご相談させていただきましたが、ご厚意で奨励金をいただき心より感謝しています。いただいた奨励金で、研究に必要な基本的な試薬や消耗品を揃えさせていただきました。平成31年4月より、職場復帰させていただいており、産休・育休中の研究の遅れを少しずつ取り戻したいと考えております。

私は、研究だけでなく森ノ宮医療大学にて臨床検査技師の教育にも携わっております。臨床検査技師は、女性が多い傾向にあります。今後の教育指導の中で、女性が仕事をしながら子育てをし、研究もする姿を見せることで、よい影響を与えられるのではないかと考えています。将来的に、当校を卒業し研究に携わり、社会に貢献できる人材が増えていくことを願っています。

皆様からご支援をいただきました今回の研究は、肺癌死亡率を少しでも低下させたいとの思いから着手いたしました。肺癌は、分子標的薬が登場し治療成績は向上していますが、浸潤や転移があると死亡率が高く、治りにくい癌の1つです。しかし、浸潤前に発見できれば5年生存率は、100%近くになっており、早期発見ができるかどうか重要になっています。今後も研究を進め、人々が健康に過ごせるよう社会貢献していきたいと思っています。

今後とも、ご支援の程よろしく願いいたします。

山崎 圭世子

大阪キリスト教短期大学 国際教養学科 助教

〔研究課題名〕

子どもの塩味嗜好性の関連要因とそれに基づく食育支援策の検討

寄付者の皆様へ〔御礼〕

今回、配布いただいた奨励金により、以前より構想を練っていた子どもの味覚と食に関する研究をスタートすることができました。ご支援をいただいた皆様に心より感謝申し上げます。

本研究は、保育・幼児教育の現場や子育て支援、また保育士養成課程での教育に役立てられる、実用性の高い研究だと考えております。子どもたちの食べる力を育み、心身ともに健全で豊かな人生を歩むための食育推進の一助となるよう、今後も研究に励んでまいります。

外山 真理

甲南大学 理工学部 助教

〔研究課題名〕

貴金属イオンを含む廃液中から貴金属を回収する光触媒の合成
－金イオン回収・光還元触媒能をもつ錯体－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

業績の多くない助教の申請した萌芽研究に対し、本奨励金をいただいたことは、大きな自信につながりました。ありがとうございました。

任期付きの助教の場合、研究・教育と並行して、次の就職活動もする必要があります。その際、多くの大学で「外部資金の取得履歴」が要求されます。今回、本奨励金をいただいたことで「外部資金の取得履歴」の1行目に記載する事項ができました。このことは、研究者としての自信になっております。

この研究課題に対して、1年間の研究では社会に直接的に貢献できる成果、もしくは論文として公刊できる成果は出せませんでした。しかし、甲南大学の学生の協力のおかげで、学術的に重要な知見が沢山集められました。加えて、教育的成果も十分に得られたと自負しております（担当学生が発表で「審査員特別賞」受賞したことが客観的にもそれを支持するものだと考えます。）。2019年4月より所属が変わり、残念ながら、現在は研究の継続ができていない状況です。しかし、この奨励金で得られた知見をきちんと社会に報告（論文として公刊）する責務を感じております。それが現在の研究への原動力となっています。

また、この研究を基にした展開の夢も大きく持っております。今後も「社会貢献しそうな研究の夢」を持つ女性研究者へのご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

女性の社会進出を肯定・推進する声は大きくなってきてはおりますが、女性研究者（教員）、特に出産・子育て世代の女性研究者（教員）の環境は、大学が教育現場であるにもかかわらず、厳しいと感じます。そのような状況で、日本私立学校振興・共済事業団が、年齢制限のない「女性研究者奨励金」を設立してくださったことは、非常に価値のあることだと考えます。重ねてのお願いになりますが、今後ともこの制度の継続のためのご支援をいただけますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

小西 由起子

甲南女子大学 看護リハビリテーション学部 助教

〔研究課題名〕

再就職した看護師の組織社会化に関する研究
－組織社会化にむけた学習尺度の開発－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本奨励金を受け、研究のプロセスを一つ一つ丁寧に遂行することができ、自身の研究者としての実践力を積み上げることができたと思います。そしてこれを機に、益々、研究の幅を広げていきたいとモチベーションを上げることができました。

ご支援いただきましたことに感謝いたします。

瀬島 寛恵

川崎医科大学 医学部 助教

〔研究課題名〕

HTLV-1の持続感染が免疫老化制御機構に及ぼす影響とその病因的意義の解明

寄付者の皆様へ〔御礼〕

我が国では、現在進行形で少子化による人口の急減と超高齢化が進んでおり、「働く人よりも支えられる人が多くなる社会」の到来が、国全体に及ぼす影響が深く懸念されている。現状のまま何も対策を打たなければ、超高齢化により医療のニーズが急増する一方で、少子化による生産年齢人口の急減で人手不足となり、医療業界における需要と供給のバランスが崩れることは必定である。さらに、近年市場に次々と投入され、保健適応となりつつある超高額医薬品が医療費の増加に拍車をかけることも避けられず、国民皆保険制度自体の存続も懸念されている。よって、健康で自立して生活できる高齢者を増やし、「現役高齢者が同世代を支える」ことを可能にする老化研究の重要性は増すばかりである。

今回、本奨励金により行った「免疫老化」研究の成果は、今後さらに発展させることで、高齢者がかかりやすいアルツハイマー病や糖尿病、脳卒中など、多くの老年病の予防・診断・治療につながるものと考えます。つまり、科学的根拠に基づいた方法で健康寿命（日常生活に制限のない期間）を延長する「夢」の実現に向けた一助となりうるかもしれない。

本研究を通じて、未知の領域に積極的に挑戦する姿勢、綿密な研究計画と基礎理論への理解の重要性を学ぶことができ、研究者としての成長を実感できました。大変感謝しています。

野々村 真希

安田女子大学 家政学部 助教

〔研究課題名〕

家庭の食品ロスの実態と原因の解明

－食品の下処理で発生する過剰除去に着目して－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

国連サミットで採択された持続可能な開発目標（SDGs）において、食品ロスの半減が目標の一つに掲げられました。これを受け、近年、国内外で食品ロスに対する関心は急速に高まっています。行政や市民によって世界各地でロス削減の取り組みが進められている一方で、研究者にもエビデンスに基づいて効果的なロス削減の方法を提案することが求められています。この度、本研究に対するご支援をいただき、そのようなロス削減方法の検討のベースとなるエビデンスを得ることができました。この得られた知見を十分に活用し、今後、実社会での食品ロス削減に必ずつなげていきたい所存です。

この度の研究では、食品ロスの実態と原因について知見を得ることが目的ではありましたが、調査で実際に被験者の方々と会い話を聞く中で、本当に望ましい家庭の食品ロス削減の対策とは何かということについても深く考えさせられました。食品ロス削減の取り組みは、消費者の行動変化を促すものではあるものの、実践する消費者自身が辛くならない、むしろ楽しんで取り組めるものであることが重要ではないかと強く感じました。今後この視点も忘れずに研究を進めていきたいと考えています。

鈴木 沙理

福岡大学 医学部 助教

〔研究課題名〕

イオン輸送体を標的とした加齢性難聴発症機序の解明と創薬応用

寄付者の皆様へ〔御礼〕

女性研究者に対して支援が増えている中、これからの社会は女性が研究しやすい環境になっていくと思われます。このような支援が自分の描く研究テーマの第一歩となり、必ずしも成果が出なくても今後につながる重要な準備段階となります。また、研究者が自由に発想して挑戦する機会が増えれば研究者を目指しやすくなり、より日本の研究活動が活発になると思います。